川崎市職員（大学卒程度　2回目）採用試験　小論文試験課題（過去3年分）

年度	試験区分	課題
令和6年度 秋実施	土木・電気 機械・建築	令和6年能登半島地震は石川県を中心に甚大な被害をもたらし、令和6年台風10号をはじめとする水災害は各地に甚大な被害をもたらしました。川崎市が、更に災害に強いまちとなるためには、市民、職員一人ひとりが「わがまちで災害が起きたら」と想定して、地域の防災力を高めていくことが重要となります。 激震化・頻発化する自然災害に対し、近年の震災・風水害で見られた課題を踏まえ、今後どのような取組が必要だと考えますか。あなたの試験区分の職種を踏まえながら、取組について具体例を挙げ、そう考える理由を述べてください。
令和5年度 2回目	土木・機械	川崎市は、令和12（2030）年度には、総床面積ベースで本市の公共建築物の約76％が築30年以上となるなど、上下水道施設、道路、橋りょう、公園施設なども含めた都市インフラの老朽化に伴う今後の集中的な大規模修繕や更新の時期の到来が懸念され、厳しい財政環境の中、こうした課題に限られた財源で計画的に対応していく必要があります。 こうした都市インフラ全体を、効率的かつ効果的に維持管理していくためには、今後、どのような取組が必要だと考えますか。あなたの試験区分の職種を踏まえながら、取組について具体例を挙げ、そう考える理由を述べてください。
令和4年度 2回目	土木・建築	川崎市では、都市計画区域内における広域的・根幹的な都市計画に関する基本的な方針を定める「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」等に基づき、計画的な都市づくりを進めていますが、少子高齢化の進展・人口減少社会への転換、新型コロナウイルス感染症の影響、脱炭素化にむけた取組の加速、自然災害の激甚化・頻発化など、本市の都市づくりを取り巻く環境の変化に的確に対応するため、現在、見直しに向けた検討を進めています。 こうした社会環境の変化を踏まえながら、将来にわたり持続可能で魅力あふれる都市づくりを進めるためには、今後、どのような取組が必要だと考えますか。あなたの試験区分の職種を踏まえながら、都市づくりの取組について具体例を挙げ、そう考える理由を述べてください。